

〔スポーツ健康福祉研究センター報告書〕

2022 年度「HBG テニス教室」活動報告

武 田 守 弘¹

HBG Tennis School Activity Report for FY2022

Morihiro TAKEDA

1. 本事業の概要

本事業「HBGテニス教室」は、広島文化学園大学の地域貢献活動として、地域の方々及び子供たちにテニスを通してスポーツにおける楽しさ、健康、交流を経験させること、本学の認知度を向上させることも目的としていた。加えて、本学学生に対して、本事業の企画・立案・運営を通して対人援助スキルを獲得させることを目的としてこの活動を行った。なお、本活動は2018年度に開始して以来、コロナ禍であっても継続して活動し、2022年度で5年目となった。

今年度の開講日時は、7月30日、8月27日、10月22日、11月26日、12月17日（12/17のみ雨天で中止）、のいずれも土曜日の10:30から12:30までの2時間、場所は郷原キャンパステニスコートテニスコート（ハード3面、砂入り人工芝3面）で行った。受講者からの参加料は無料とした。受講対象者は広島・呉地域をはじめとするテニス愛好者（幼児、小学生、中学生、高校生、一般を含む）で、中級クラス、初級者クラス、初心者クラスを設けて実施した。参加者の延べ人数は114名であった。指導内容については、中級クラスは基本・応用練習に加え、大学生とのゲーム形式など試合での実力発揮を目標に指導した。初級者クラ

スは各ショットの技術向上を目指し基本練習を中心に指導した。初心者クラスは小学生の子供とそ



写真1 初心者クラスの指導風景
（ラリーの指導）



写真2 初級クラスへの指導風景
（スキルの説明）

¹ 広島文化学園大学人間健康学部

(Faculty of Human Health Science, Hiroshima Bunka Gakuen University)



写真3 中級クラスの指導風景
(実践場面を想定した解説)



の親御さんに対してプレイ&ステイを中心とした内容で楽しくテニスを指導した。なお2018年度から内容を大幅に変えることなく継続して行っている。

本テニス教室の特徴は、いずれのクラス共に学生であるテニス部員が指導を行うところであった。普段自分が実践して学んでいる技術を他人に伝える難しさ、時間配分を考えながら次から次へと練習メニューを切り替えていくタイムマネジメントなどを通して、広島文化学園大学の探求テーマである「対人援助」や「社会的スキル」を学ぶ場とした。なお、今年度は昨年度も指導した学生を含み、10名の部員が指導者として関わった。

2. 本事業の効果

指導にあたった本学学生はテニス教室の受講生に対するテニス指導を通して、コミュニケーションスキルを含めた社会的スキルを維持または向上

させたことが示唆されている（武田2022）。普段接点の極めて少ない一般の方々を対象とすること、ショットの打ち方や練習メニューでの人の動かし方などの難解な説明が多いことから、他者に説明事項を理解させるために発言を多くしたり、発声を変えたり、表情を変えたりするなど、様々な方法を工夫したことが、その効果をもたらしたこととして挙げられる。また、説明をうまく理解させることができた体験を通して、自己肯定感を向上させ、対人援助に対する自信を得たことによるのではないかと考えられる。

当初の目的であった地域の方々及び子供たちにテニスを通してスポーツにおける楽しさ、健康、交流を経験させることや、本学学生に対して、本事業の企画・立案・運営を通して対人援助スキルを獲得させることを達成できたと実感できた。学生が主体的に動き準備することが、学生の成長を促すことが垣間見え有益であった。次年度も継続してこの活動を行っていきたいと考えている。

3. 引用参考文献

武田守弘 (2022) 大学における地域貢献活動
「HBGテニス教室」が指導役の学生及び受講生
の社会的スキルに与える影響. テニスの科学
第30巻 pp74-75.